



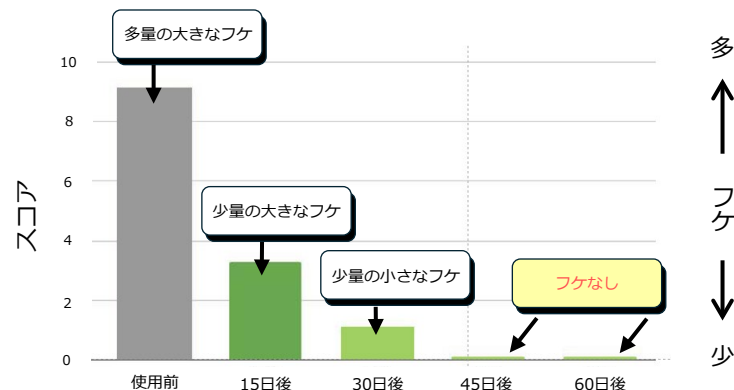
スカルプケア *-in vivo-*

臨床試験で頭皮での有効性を確認

【試験方法】 ミラノ大学薬学部による臨床試験

- 脂漏性皮膚炎の症状を示す40名の被験者、
- 2% LIPACIDE C8G配合シャンプー：2ヶ月間連用、3日に一度（ヨーロッパでの一般的な洗髪サイクル）
- 落屑（フケ）、皮脂の分泌、頭皮の赤みを評価

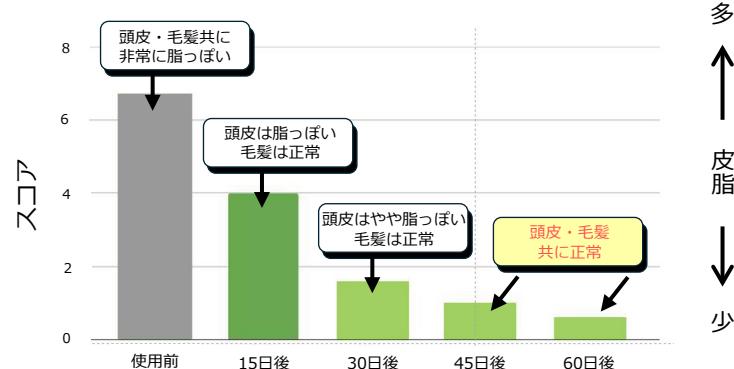
フケ



LIPACIDE C8Gの使用で、
マラセチア菌の増殖抑制により、
フケが減少。



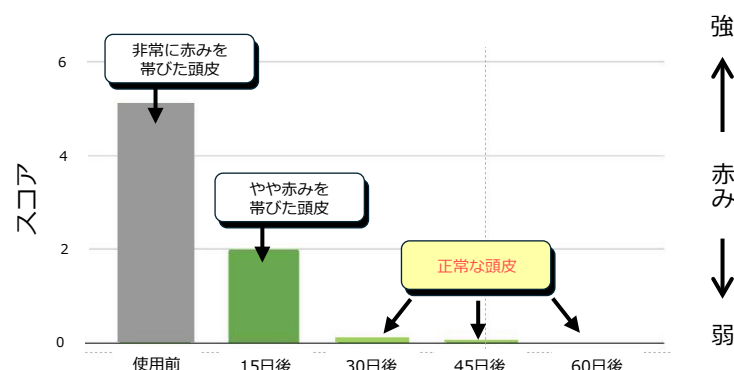
皮脂



LIPACIDE C8Gの使用で、
5α-レダクターゼ活性抑制により、
皮脂分泌が減少。



赤み



LIPACIDE C8Gの使用で、
炎症による刺激が緩和され、
頭皮の赤みも改善。



製品情報

LIPACIDE™ C8G

化粧品表示名称	カプリロイルグリシン
医薬部外品表示名称	N-オクタノイルグリシン
INCI名	Capryloyl Glycine

推奨配合濃度 : 1～2%
至適pH : 5～7



LIPACIDE™ C8G

肌にも頭皮にも、クリアスキンのためのリポアミノ酸

表示名称：
カプリロイルグリシン



Dr. クリアスキン



LIPACIDE™ C8G

クリアスキンへの可能性を無限大に

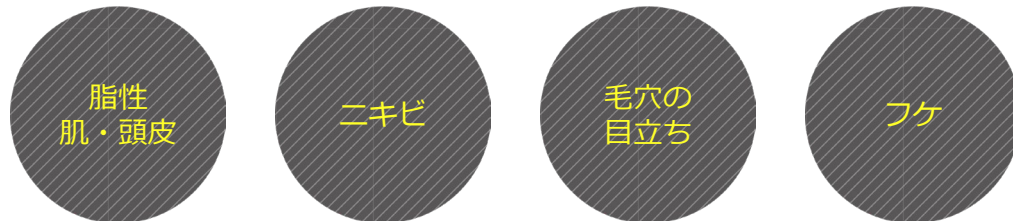
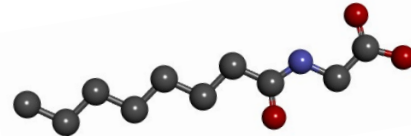


クリアスキン成分：カプリロイルグリシン (C8G)

抗DHT* (オイリーホルモン) 効果・抗菌効果を持つリポアミノ酸

臨床試験で確認された確かな効果

医薬部外品でも使用可能

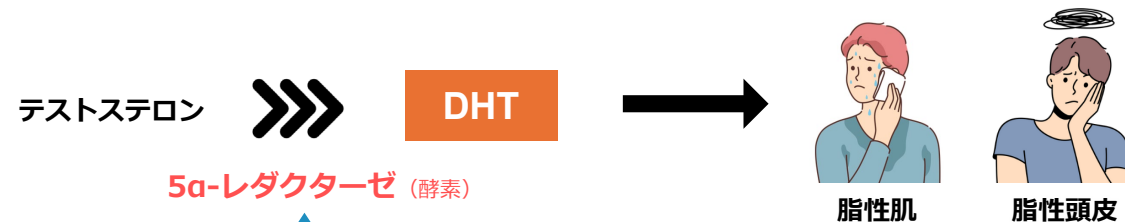


*ジヒドロテストステロン

クリアスキンへの道 —「ホルモン」と「菌」を制御し、肌トラブルから卒業

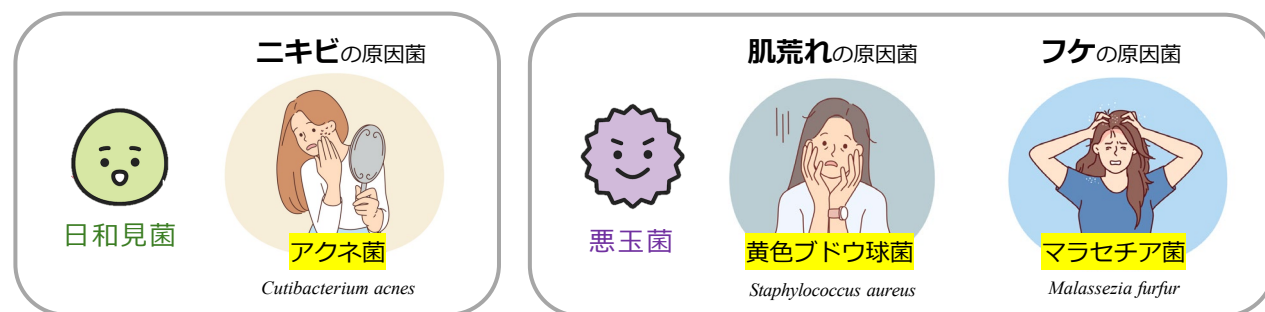
オイリーホルモン「DHT」の産生を未然に防ぐ

- ・DHTは、脂性肌・頭皮の原因となるホルモン。
- ・DHTの量は、テストステロンと5α-レダクターゼの2つの要素で決まる。



クリアスキン成分C8Gが、5α-レダクターゼの活性を抑制し、DHT産生を制御。
過剰な皮脂分泌を抑制し、脂性肌・頭皮を改善。

肌トラブル菌を撃退



クリアスキン成分C8Gが、肌トラブルの原因となる日和見菌、悪玉菌の増殖を抑制。
肌ではニキビや肌荒れを改善し、頭皮ではフケの発生を抑制。



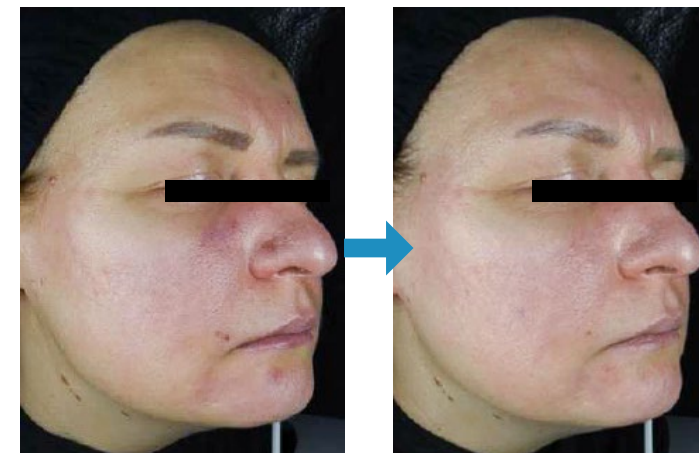
スキンケア -in vivo-

皮膚科医による臨床試験で顔での有効性を確認

【試験方法】

- ①混合肌または脂性肌で肌トラブルを起こしやすい 22人のボランティア (18~46 歳) が、1 日最低2時間、平均5時間マスクを着用。
- ② 1% LIPACIDE C8G を含むエマルジョンを顔に1日2回塗布。
- ③ 炎症性 / 非炎症性の肌トラブル、肌荒れ、毛穴について14日および 28日後に臨床スコアを付け、試験前と比較。

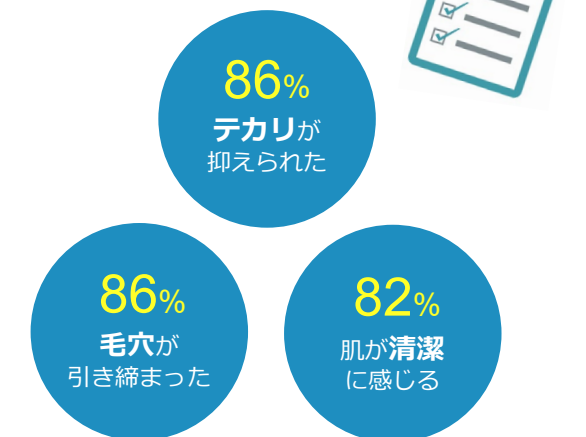
被験者の外観写真



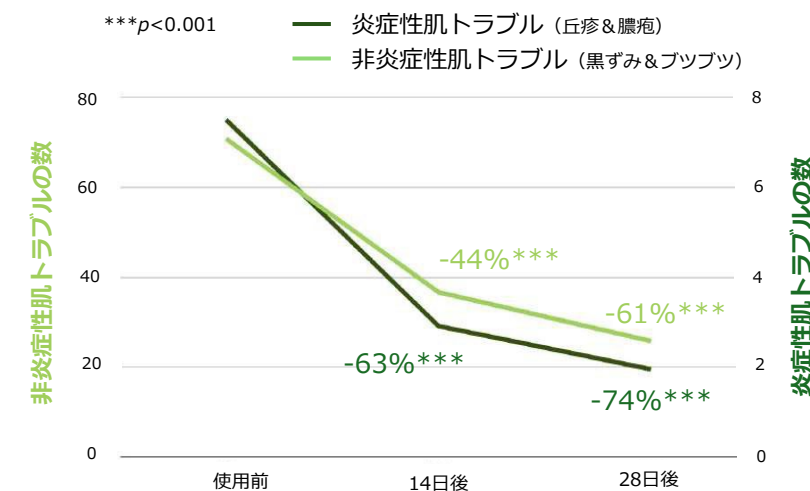
試験開始前

連用28日目

被験者のアンケート (28日後)

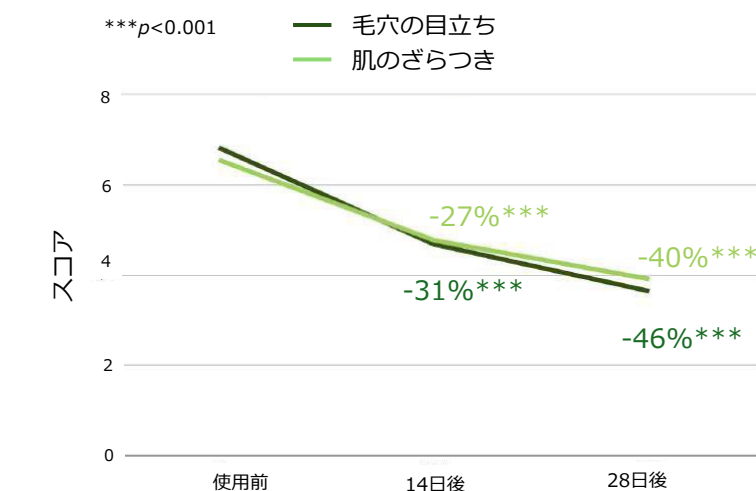


頬と顎の肌荒れ



LIPACIDE C8Gの使用で、
各種肌トラブル
が改善。

顔全体の毛穴とざらつき



LIPACIDE C8Gの使用で、
毛穴の目立ちと肌のざらつき
が改善。

■毛穴の目立ち (スコア: 0~9)
0 = 毛穴が引き締まり、ほとんど目立たず、滑らかな外観。
~9 = 毛穴が非常に開き、非常に目立つ、肌荒れた外観。

■肌のざらつき (スコア: 0~9)
0 = ざらつきがなく、薄く、非常に滑らかなキメ。
~9 = ざらつきが非常にひどく、キメが不規則。